

第 3 回海上分科会の議事概要

第 3 回江田島市公共交通協議会（海上分科会）

日時：平成 22 年 1 月 21 日（木）午前 10 時～12 時

場所：江田島市役所 2 階会議室

内容：江田島市地域公共交通総合連携計画(案)について

■海上交通の方向性について

- ・ 航路の「一元運営体制」という表現があるが、究極の目的は航路の健全な運営による安定的なサービス供給である。必ずしも市全体で「一元運営体制」を取る必要はないのではないか。
- ・ いきなり 1 つにできるのか疑問はある。運営体制が 1 つになることで、かえってサービスの低下するのではないか。
- ・ 船舶や船員の共通化や連携の可能性について少し時間をかけて進めてはどうか。一元運営体制は選択肢の 1 つと思う。
- ・ 船舶は 20 年を超えても使用できるのだが、減価償却による対応年数は短いため、借入れの返済期間が短く設定され、単年の負担額が大きくなる。これを延長して頂けるよう、旅客船協会として国に要望しようと考えている。市としても融資制度などの仕組みを検討頂きたい。
- ・ 江田島市は本土と架橋でつながっており離島でないため航路に対する補助制度が無い。しかしながら、橋を通るバスがないので、車が無い人にとっては、唯一の交通手段は船であることから、江田島市は離島同然である。バスには国や県の補助制度が整備されているので、航路に対する補助制度についても考えてもらいたい。
- ・ 国民の移動の権利を定める「交通基本法」が来年に国会に提出される予定であるが、このタイミングで市としてしっかりアピールして頂きたい。
- ・ 若い人が住めるまちにするための施策を考えるべき。定住人口が増加しなければ、航路の利用者は増えない。
- ・ 各社が抱える予備船や予備船員の共有により効率化が図れると考える。

■個別の事業について

- ・ 西能美の航路については、一元運営体制が望ましいと思う。
- ・ 三高・大須～宇品航路の三高港については、以前に 11 便、減便する計画を検討していたが、当面は現行の 16 便で運航したいと考えている。また、大須港においては、利用者が 1 日あたり 40 人程度であり、採算が合わないため、寄航をやめざるを得ない状況である。代替措置として切串港までのバス運行または、企業局の高速船の寄航を考えてもらえないだろうか。
- ・ IC カードの導入については、フェリーの改札の問題等、これから検討が必要である。導入についての検討はすべきであろう。導入するのであれば、広島市内の電車やバスで利用できるパスピーで揃えるべきである。
- ・ 県知事が提唱している「海の道 1 兆円構想」の方向性にうまく乗っていく必要がある。
- ・ 観光に関しては、みかん狩り等、魅力的な資源が存在する。個別の施設の整備に公的補助がおりにくいことが問題である。観光施設のトイレが水洗化されていないことで利用したくないという話も聞く。トイレ整備をバイオ等の先端技術を利用して整備する場合には補助できる仕組みができないか。